

## 指導例 13

1 主題名 文化を守る

2 資料名 「博物館創設にささげた一生」—町田 久成—

3 ねらい 郷土や我が国の文化と伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心情を育てる。(4-(7) 郷土愛・愛国心)

### 4 主題について

#### (1) 価値について

国際化が急速に進展する中、広い視野を持って異文化を理解するとともに異なる文化や習慣をもった人々と交流し、共に生きていくための資質や能力の育成を図る必要がある。そのためには、まず郷土や我が国の発展に尽くし文化や伝統を育てた先人の努力を知り、歴史・文化・伝統に対する誇りや愛情と理解を培うことが重要である。そして、自分もまたそれを継承し発展させていくべき責務があることを自覚し、それに努めようとする心を育てる必要がある。

#### (2) 児童の実態

この期の児童は、地域の伝統的な行事に関心を持ったり、社会科学習などを通して歴史に対する興味・関心を持ったりしつつある。しかし、日本の文化的な遺産にまで目を向け、それを守っていこうとする意識は薄い。このような児童に、我が国の文化を大切にすることを養い、郷土や国を愛する心を育てることは大切なことである。

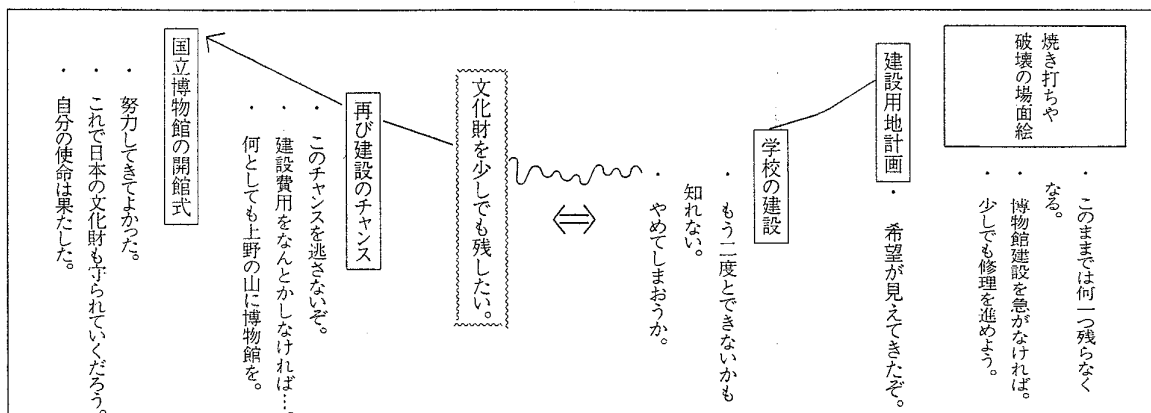
#### (3) 資料について

ア 本資料は、文化財保護の法制化及び博物館創設に一生を捧げた町田久成の話である。郷土出身ながらその業績はあまり知られていないが、国立科学博物館・国立西洋美術館・上野図書館・上野動物園等の文化のメッカは久成の構想であり、文化財保護と博物館創設に努めたその生き方は「日本の文化行政の先駆者の存在」とも言われている。困難を克服しながら国立博物館を創設し、文化財保護に努めた久成の生き方とそれを支えた思いを追究させたい。

イ 本資料は幕末から明治にかけての話であり、諸史的事項など社会科学習と深くかかわる語句が登場する。このことから、明治維新前後の学習後、本資料を取り扱うことが望ましい。

ウ 日本の古美術や文化財などの素晴らしさを、本資料を読むだけでは児童に感じ取らせることはできない。そこで、仏像などの写真や社会科掛け図などを活用して、古美術や文化財などの優雅さなどについて気づかせたい。また、古美術や文化財などの持つ歴史的な意味を補説したい。

### 5 板書例



### 6 参考文献

○ 町報「まつもと『郷土の偉人①～⑧』」

7 展開例

過程	主な学習活動（・子供の意識）	指導上の留意点
導    入	1 古美術などの写真を見て、話し合う。 (1) 写真を見て、どう思うか。 ・ 美しい ・ 気高い ・ 柔らかい (2) 今まで伝えられてきているのは、なぜだと思うか。 ・ 昔から大切にされてきたから。	○ 感じたことを自由に話し合う。 ○ 美しさや歴史的意義などについて簡単に補説する。 { 児童の体験の中で文化・伝統等に触れたものがあれば、それを基にして追求すべき課題意識の掘り起こしをする。 }
展          開	2 資料「博物館創設にささげた一生」を読んで話し合う。 (1) 帰国後、文化財が破壊や海外流出にさらされている状況を目の当たりにした久成は、どんなことを考えたか。 ・ 西洋では大切に保存されているのに。このままでは、何一つ残らなくなってしまう。 ・ 博物館建設を急がなければ。 ・ 少しでも修理を進めよう。 (2) 博物館建設予定地に学校が建てられたことを知った久成はどんな気持ちだったか。 ・ もう二度とできないかも知れない。 ・ やめてしまおうか。 (3) 建設の希望を失いながらも資料を整理する作業を続けたのは、どんな気持ちからか。 ・ 大事な文化財を少しでも残したい。 ・ あきらめないぞ。 (4) 再びチャンスが来た時、久成はどんなことを考えたか。 ・ このチャンスを逃がさないぞ。 ・ 建設費用を何とかしなければ…。 ・ 何としても上野の山に博物館を…。 (5) 開館式に臨んだ久成は、どんなことを考えたか。 ・ 努力してきてよかった。これで、日本の文化財も大切に保護されていくだろう。 ・ 自分の使命は果たした。	○ 留学先での経験を通して総合的な博物館建設の思いを胸に帰国した久成が、破壊や流出にさらされる文化財の保護の必要性を痛感したことをとらえさせる。また、日本の文化財を守るために、博物館を建設することが自分の使命であると考えようになったことをとらえさせる。 ○ 建設への希望を胸に出掛けた出張時の気持ちと、建設できなくなった時の気持ちとを対比し、久成の失意の深さを類推させる。 ○ 久成の日本の文化財保護への思いの深さをとらえさせる。 ○ 文化財保護と国民開明のために何としても総合博物館を建設しなければならぬという久成の思いが、いくつかの困難を乗り越えさせたことをとらえさせる。 ○ 博物館建設によって文化財を保護するという一つの仕事をやり遂げた満足感や成就感に共感させる。 ○ 自分の経験とそのときの心情を振り返らせることにより、価値の自覚を深める。
終    末	4 郷土や日本の文化・文化財、伝統などについての教師の説話を聞く。	○ 彫刻、絵画、音楽、文学、舞踊などに貢献した人々にまつわる話や地域の文化財などの話をし、伝統文化に触れようとする意欲を高める。 [児童の日記等で取り上げることのできるものがあれば紹介し、実践意欲を持たせたい。]